

6年生 総合的な学習

6年1組 「めざせ！まちの防災ヒーロー！」

最高学年となった4月、箱根山の噴火やネパールでの大地震、頻繁に起こる地震について毎日のように災害のニュースが報道されていました。そのような中、初めての防災訓練を行い、子どもたちは自分たちの防災意識に対して課題をもちました。「大きな災害が起きたら今のままで本当に自分自身の命を守れるのか。」「防災について詳しく調べていくことで、自分自身や家族、日枝小のみんな、まちの人を守っていきたい。」という思いから防災の活動がスタートしました。

消防局の方と減災ファシリテーターの方に来ていただき、ハザードマップをもとに、日枝のまちにどのような災害が起こる可能性があるのか、実際に映像を見たりマップを作る体験をしたりしながら教えていただきました。また、「防災備蓄庫には何が入っているのか。」という疑問から、実際に学校の防災備蓄庫の中を調べました。食糧だけではなく、仮説トイレやおむつ、粉ミルク、多言語表示シートなど、たくさんの物を見つけ、「防災備蓄庫は、災害に備え、多くのものを備蓄しているだけではなく、赤ちゃんやお年寄り、外国の方など、様々な立場の人たちのことを考えて作られている。」ということに気がきました。

「防災備蓄庫の中で見つけた物は、実際にどのように使用されるのか。」という新たな疑問をもった子どもたち。これからは、地域の防災指導員の方にご指導を受けながら、トイレの組み立てに挑戦していきます。



6年2組 「ドッキ土器！縄文人に挑戦！（仮）」

4月、今年度の仲間の活動を話し合う中で、子どもたちから「教科と組み合わせると楽しく学べる。」と教科と「仲間」を関連させる意見が出ました。社会の学習で学んだ「もののはじまり」の縄文土器を自分たちの力で縄文人と同じようにつくることで「どんなふうに進化してきたか調べたい。」「昔の人の技術、苦勞を知りたい」と、活動が始まった。三殿台遺跡や埋蔵文化センターで実際に縄文人が住んでいた暮らしの様子を調べたりすることや考古学者の方から土器について詳しく聞くことで縄文土器の文様には様々な意味が込められていることが分かりました。実際に自分たちで作りたいと作り方を調べましたが、「粘土を作ること」「野焼きをすること」の二つの大きな壁があることが分かりました。「粘土質の土を探さないと！でもどこにあるのかな。」「野焼きって半日かかってすごい煙が出るらしい。横浜市の条例に外で勝手に燃やしてはいけないってあるよ。」と縄文人と同じように作るには解決しないといけない問題が山積みです。水もれせずに煮炊きに使える土器をつくるにも技術がいります。

様々な問題を解決していきながら縄文人のように煮炊きに使える縄文土器づくりを目標に活動をすすめています。



6年3組 「日枝小コットンプロジェクト（仮）」

4月、福島オーガニックコットンプロジェクトの方から、綿花の種をいただきました。クラスの中には、4年生の頃にカイコを育て、糸を取り出した経験がある子がいたため、「植物からも糸ができるんだ。」と驚きの中、活動がスタートしました。

育てる環境を整え、種を植えました。小さな芽が出て、ゆっくりゆっくり時間をかけて、少しずつ大きくなっていきます。夏休みには、黄色いきれいな花が咲きました。この後、花が落ちて実になり、それがコットンボール（綿）になります。少しでも多くの綿を収穫できるよう、世話をがんばっているところです。

綿を収穫したら、糸を紡ぎ、それを織って布にしたいと考えています。その前に、綿のことを詳しく知ったり、糸を紡ぐ練習をしたりしたいと、子どもたちは放課後、布団屋さんに綿を譲ってもらえないか、交渉に行きました。そこでもらってきた綿を触ったり水につけたりして吸水性を確かめたりしました。綿素材のよさに少し気づき始めています。



6年4組 「ミニチュアワールド」

食品サンプルやミニチュアを作ってみたいという思いをもった子どもたち。また、最高学年として学校に自分たちの足跡を残したいという思いをもっている子どもたち。そこで、給食室のサンプルを自分たちで作ろうと活動が始まりました。

まずは、自分たちの手でミニチュアを作ってみようと、作り方を調べたり、材料を準備したりしてチャレンジしました。豚汁やクリームソーダ、ハンバーグやマカロンなど思い思いのミニチュアを作りました。自分の世界に入り込んで、黙々と作っている子もいれば、友達とアドバイスをし合いながら協力して作っている子もいました。みんな活動にとっても集中して取り組みましたが、なかなか難しく、課題もたくさん見つかりました。

今後の計画について話し合うと、「まだ作りたい」という思いもある中で、「プロの職人の人に聞きたい」、「アドバイスをもらいたい」、「日枝のまちにある食品サンプルを調べたい」、「食品サンプルを置いてあるお店と置いていないお店の違いを調べたい」、「お客さんの立場で食品サンプルの価値を調べたい」など、調べたいこと・やってみてほしいことが次から次へと子どもたちから出てきました。

これから一つひとつの課題を解決して、日枝っ子のためになる「ミニチュア」を給食室に置くことを目標に、活動を進めていきます。

